

勅授

120

丙
昭和九年九月廿三日

立案 昭和 年 月 日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故正五位大竹貫一位階追陞ノ件

記入済
詔令九月廿三日
昭和九年九月廿三日
臺帳記入九月廿三日
官報報告済

裏面白紙



故正五位大竹貫一位階追陞、件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年九月二十九日

内閣總理大臣小磯國昭



内閣

人皇第二六一號

案起

昭和十九年九月廿七日

裁可

昭和十九年九月廿九日施行

昭

和 年 月 日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官



故正五位大竹貫一ハ別紙内務大臣
稟申ノ通功績顯著ナル者ニ候處
本月二十二日死去ノ趣ニ付特旨ヲ
以テ左ノ通位階追陞ノ件上奏相
成然ルヘシ

内

閣

故正五位大竹貫一

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル

正五位大竹貫一

敘從四位

九月二十二日付

本件ハ特ニ急ヲ至
至急發令方御用

第 二 六 一 號

案 起	昭和十九年九月廿七日
裁可	昭和十九年九月廿九日
施行	昭和十九年九月廿九日
決定	昭和十九年九月廿七日

内閣總理大臣

(Signature)

内閣書記官長

(Signature)

内閣書記官



故正五位大竹貫一ハ別紙内務大臣
 稟申ノ通功績顯著ナル者ニ候處
 本月二十二日死去ノ趣ニ付特旨ヲ
 以テ左ノ通位階追陞ノ件上奏相
 成然ルヘシ

内閣

故正五位大竹貫一
 特旨ヲ以テ位一級追陞セラル
 正五位大竹貫一
 叙從四位

九月二十二日付

本件ハ特ニ急ヲ要シ候ニ付
 至急發令方御取計相成度
 内閣

3/7

至念

内閣人内位第一六一號

乙第五一三號

昭和十九年九月二十七日

内務大臣 大 達

茂 雄



内閣總理大臣 小 磯 國 昭 殿

正五位勳二等 大 竹 貫 一

右者資性剛直人格高潔ニシテ名利ニ捉ハレズ權門ニ詔ハズ常ニ淡々タル境地ニ在リテ國事ニ没頭ス、明治十三年齡二十一歳ニシテ新潟縣南蒲原郡中之島村會議員ニ當選シ踵イデ新潟縣會議員ヲ經テ明治

内 務 省

二十七年衆議院議員ニ膺選シ、選ヲ重ヌルコト連續十六回實ニ三十有餘年ノ永キニ亘リ國政ニ參畫シ、國論ノ統一ニ努メ來リシモノニシテ憲政ノ功勞者トシテ世人ノ等シク認ムル所ナリ、其ノ間鄉黨ニ在リテ南蒲原郡中之島村大字中之島ヨリ灰島新田ニ至ル新道開鑿工事ニ私材ヲ抛チ公衆ノ利益ヲ助長シ、或ハ信濃川治水工事ノ成否ハ以テ縣民ノ休戚ニ關スルコト大ナルヲ慮リ幾多ノ難關ヲ押シ切り有志ヲ鼓舞激勵スルト共ニ中央當路局ニ獻策シ、東奔西走克ク本邦治水事業上屈指ノ大業ヲ完成シ、遂ニ沃野ヲ暴張氾濫ノ禍害ヨリ救ヒ有數ノ農産地タラシメシモノニシテ其ノ功績、其ノ德望ハ縣民齊シク敬仰スル處ニシテ鄉黨衆庶ハ大竹宗卜唱へ宗教的の信仰心ヲ以テ同

3/8
課外人房官内
19.9.27
付受

めくれず

人ヲ畏敬シアリタリ、斯ク如ク其ノ生涯ヲ通シ公事ニ貢獻シ來リシ
モムシテ其ノ勞功洵ニ多大ナルモノ有之候處偶々病ヲ得本月二十二
日卒去致シ候ニ付テハ衆議院議員トシテノ功績ニ併セ相當敍位ノ恩
典ニ浴セシメラレ度此段及稟申候也

内務省

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アラタシ

人秘第四七七號

昭和十九年九月二十六日

新潟縣知事 前 出 多 門



内務大臣 大 達 茂 雄 殿

民間功勞者特旨敘位ノ儀ニ付内申

本籍地 新潟縣南蒲原郡中之島村大字中之島二八六番戸

現住所 新潟縣南蒲原郡中之島村大字中之島二八六番戸

正五位勳二等 大 竹 貫 一

右ハ去ル九月二十二日卒去致候處同人ハ生前衆議院議員、貴族院議員トシテ終始國政ニ參與シ地方開發、治水事業ニ貢獻スル處不勘候條特旨敘

新 潟 縣

位ノ儀御陰議相成度關係書類添屬及内申候也

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アリタシ

功績調書

正五位勳二等 大竹實一

右ハ居村中之島村ノ豪農ニシテ大庄屋ノ家ニ生レ資性剛直人格高潔ニシテ名利ニ捉ハレズ權門ニ詔ハズ常ニ淡々タル境地ニ在リテ國事ニ没頭ス

然モ高邁ナル識見ヲ以テ常ニ野ニ在リテ民意ヲ暢達シ國家有事ニ際シテハ克ク國論ノ統一ニ努メ國士トシテ世ノ畏敬ヲ受ク

即チ明治十九年以來新選縣會議員ニ選バルコト三四次テ同二十六年以降本縣ヨリ推サレ衆議院議員ニ選出スルコト連續十六回實ニ五拾有餘年ノ水キニ亘リ一志鐵石ノ如ク國事ニ當リ昭和十年第六十四回帝國議會ニ於テ憲政功勞者トシテ顯彰セララル翌昭和十三年二月貴族院議員ニ勅選セラレタルモ昭和十四年十一月辭任ス

新潟縣

又内ニアリテハ公共心篤ク地方開發ニ盡瘁シ其ノ功績顯著ニシテ其ノ主ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

一 明治十六年居村南蒲原郡中之島村大字中之島ヨリ灰島新田ニ至ル道路狹隘不便ナルヲ憂ヒ私財ヲ抛テ新道ヲ開鑿シ公衆ノ利益ヲ興シ功績顯著ナルニ依リ藍綬褒章ヲ賜ハル

二 享保以來二百年間本縣トシテ一大懸案ナル信濃川治水ノ骨髄トモ認スベキ信濃川分水工事ノ成否ハ縣民ノ休戚ニ關スルコト大ナルモノアリ而モ之カ實施ニ至ル迄ハ幾多ノ難關アリ時ニ中止ノ厄ニ遭ハントスル等前途洵ニ暗澹タルモアリシモ同人ハ敢然有志ヲ鼓舞激勵スルト共ニ中央要路ノ間ヲ奔走シ遂ニ本邦ノ治水ニ專屈指ノ大業ヲ完成セシムルノ因ヲ啓キタリ

三 源ヲ守門岳ニ發シ居村ヲ貫流スル刈谷出川（信濃川大支流）ハ屈曲迂回廣狹交錯スルヲ以テ其ノ治水ノ緊要ヲ唱導シ改修工事ニ全

財產（數十萬圓）ヲ投ジ眞ニ裸一貫トナリ最後ノ完成ヲ見ルニ至ルマテ終始盡力シ遂ニ沃野ヲ暴漲氾濫ノ被害ヨリ救ヒ縣下有數ノ

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アリタシ

米產地タラシメタルニ至ル

新潟縣

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アリタシ

” 十三年二月
” 十四年十一月

實族院議員ニ勅任セララル
依願實族院議員ヲ免セララル

新潟縣

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アラタシ

受 賞 事 項

土木建築

明治 八年 九月 劉谷出川堤防自費修繕ノ故ヲ以テ木杯一個
 賜
 下賜
 劉谷出川水堤防私財ヲ以テ修繕ノ故ヲ以テ
 木杯一個下賜
 南蒲原郡役場建築費寄附ノ故ヲ以テ木杯一個
 下賜
 三條警察署建築費寄附ノ故ヲ以テ木杯一個下
 賜
 南蒲原郡今町電信局創設費寄附ノ故ヲ以テ木
 杯一個下賜
 南蒲原郡中之島村ヨリ灰島新田ニ至ル道路狹
 窄不便ナルヲ憂ヒ私財ヲ以テ開鑿シ公衆ノ利
 益ヲ與シ成績著明ナルニヨリ藍授褒章ヲ賜フ
 賞 勳 局

衛生
 十二年十二月 疾病流行ノ際中之島村豫防藥價費寄附ノ故ヲ

新 潟 縣

新潟縣知事

恤 救

十八年 六月 以テ木杯一個下賜
 中之島村傳染病豫防費寄附ノ故ヲ以テ木杯一
 個下賜
 十一 年 四月 中之島村窮民米穀施與艱難相救ノ情誼ヲ盡シ
 タル故ヲ以テ褒辭
 十二 年 十二月 中之島村窮民ヘ金穀施與ノ故ヲ以テ木杯一個
 下賜
 十 三 年 五月 三條町大火ニ際シ罹災民ヘ金員救助ノ故ヲ以
 テ木杯下賜
 十四 年 四月 中之島村窮民ヘ金員施與ノ故ヲ以テ木杯一個
 下賜
 二十 七 年 十二月 中之島村火災ノ節被害窮民ヘ金員施與ノ故ヲ
 以テ褒辭
 二十 九 年 五月 日清戰役ノ節中之島村出征軍人家族救恤費寄
 附ノ故ヲ以テ褒辭
 十 三 年 四月 中之島高等小學校金五百圓又寄附ノ故ヲ以テ

教 育

◎本件ニ關スル照復ニハ必ズ本書ノ年月日及番號ヲ掲記アリタシ

銀壹一個下賜

中之島高等小學校へ基本金壹千圓寄附ノ故ヲ以テ銀壹一個下賜

全

明治二十七八年戰役ノ際軍資金五十圓寄附ノ故ヲ以テ木杯一個下賜

明治二十七八年戰役ノ際軍用品獻納ノ故ヲ以テ木杯一個下賜

第七回帝國議會召集ノ際勳情ニ付銀一圓組ヲ賜フ

明治三十七八年戰役ノ功ニ依リ勳四等旭日章授章賜フ

大正三四年事件ノ功ニ依リ勳三等瑞寶章授ケ賜フ

多年衆議院議員ノ職ニ在リテ勳勞不尠依リ旭日中授章ヲ授ケ賜フ

大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ金杯ヲ賜フ

新潟縣知事

賞勳局

新潟縣

昭和 十年

衆議院議員勳三十二年憲政ノ功勞著トシテ表彰

衆議院

九年 四月

昭和六年乃至九日事變ニ於ケル功ニ依リ勳二等ニ叙セラレ瑞寶章ヲ授ケ賜フ

賞勳局

十三年 二月

大正五位(憲法發布五十年週年ニ當リ憲政ニ盡シタル功ニ依リ)

宮内省

衆庶第二八四號

昭和十九年九月二十六日

衆議院書記官長 大木



内閣總理大臣 小磯國昭殿

元議員特旨叙位叙勳ノ件

元本院議員正五位勳二等大竹貫一儀去二十二日卒去仕候
同人ハ明治二十七年三月施行セラレタル第三回總選舉ニ際シ新潟縣
ヨリ推サレ衆議院議員ニ當選シタルヲ初メ爾來第六回、十五回總選
舉ヲ除キ第二十回總選舉ニ至ル迄毎回當選シ在職三十四年九月ノ水
キニ亘リ議會ヲ閱スルコト亦五十八回ノ多キニ及ヒ候

衆議院

幾多ノ重要法律案委員會ニ於テ屢々理事、或ハ委員トシテ克ク其ノ
職務ニ執掌シ憲政ノ進展民意ノ暢達ニ貢獻セル功績誠ニ多大ナルモ
ノ有之去ル昭和十年三月（第六十七回議會）衆議院ハ特ニ院議ヲ以
テ永年在職議員トシテ其ノ功勞ヲ表彰致候就テハ今般同人ノ卒去ニ
際シ生前ノ功績御詮議ノ上特旨叙位及叙勳ノ儀御取計相成度別紙履
歷書及參考書類相添ヘ此段及上申候也
追而貴族院ニ於ケル同人功績調書添附致候

327
19.9
付

昭和一一

一 二 衆議院議員當選（第十九回總選舉）

一 三 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

一 四 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

一 五 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 一 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 二 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 三 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 四 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 五 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 六 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 七 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 八 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

二 九 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 一 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 二 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 三 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 四 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 五 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 六 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 七 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 八 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

三 九 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 一 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 二 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 三 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 四 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 五 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 六 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 七 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 八 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

四 九 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

五 一 衆議院議員當選（第二十回總選舉）

衆議院

昭和	大正	明治	議員任職中重要委員調	大 行 員 一
三	元	四四	三	
一〇	四	四四	二	二八 大湊開港ニ關スル建議案委員
一	五	四一	二	二二 石 埋畢
七	三	四〇	二	二一 北海道拓殖經營案基礎確立及北海道拓殖鐵道 急設ニ關スル建議案外一件委員
一	二	三一	二	一九 青森港修築ニ關スル建議案委員
一	二	二〇	一	一八 盲人保護ニ關スル建議案委員
一	二	一八	一	一七 郡役所廢止ニ關スル建議案委員
一	二	一七	一	一六 未成年者飲酒禁法案委員
一	二	一六	一	一五 地租課内改正法律案外一件審査特別委員
一	二	一五	一	一四 衆議院議員選舉法中改正法律案委員
一	二	一四	一	一三 一 歳算委員
一	二	一三	一	一二 〇 算稅定平法輸入稅表中改正法律案委員
一	二	一二	一	一一 一 活水費資金特別會計法案外一件委員
一	二	一一	一	一〇 二 前參議司法卿江藤新平表彰ニ關スル建議案委員
一	二	一〇	一	〇 二 樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及ヒ漁業料ノ徵收ニ關スル法律案
一	二	〇九	一	〇 一 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇八	一	〇 二 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇七	一	〇 三 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇六	一	〇 四 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇五	一	〇 五 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇四	一	〇 六 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇三	一	〇 七 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇二	一	〇 八 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇一	一	〇 九 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	〇〇	一	一〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九九	一	一一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九八	一	一二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九七	一	一三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九六	一	一四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九五	一	一五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九四	一	一六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九三	一	一七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九二	一	一八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九一	一	一九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	九〇	一	二〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八九	一	二一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八八	一	二二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八七	一	二三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八六	一	二四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八五	一	二五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八四	一	二六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八三	一	二七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八二	一	二八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八一	一	二九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	八〇	一	三〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七九	一	三一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七八	一	三二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七七	一	三三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七六	一	三四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七五	一	三五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七四	一	三六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七三	一	三七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七二	一	三八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七一	一	三九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	七〇	一	四〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六九	一	四一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六八	一	四二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六七	一	四三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六六	一	四四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六五	一	四五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六四	一	四六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六三	一	四七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六二	一	四八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六一	一	四九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	六〇	一	五〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五九	一	五一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五八	一	五二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五七	一	五三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五六	一	五四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五五	一	五五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五四	一	五六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五三	一	五七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五二	一	五八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五一	一	五九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	五〇	一	六〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四九	一	六一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四八	一	六二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四七	一	六三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四六	一	六四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四五	一	六五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四四	一	六六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四三	一	六七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四二	一	六八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四一	一	六九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	四〇	一	七〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三九	一	七一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三八	一	七二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三七	一	七三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三六	一	七四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三五	一	七五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三四	一	七六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三三	一	七七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三二	一	七八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三一	一	七九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	三〇	一	八〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二九	一	八一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二八	一	八二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二七	一	八三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二六	一	八四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二五	一	八五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二四	一	八六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二三	一	八七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二二	一	八八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二一	一	八九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	二〇	一	九〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一九	一	九一 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一八	一	九二 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一七	一	九三 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一六	一	九四 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一五	一	九五 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一四	一	九六 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一三	一	九七 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一二	一	九八 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一一	一	九九 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員
一	二	一〇	一	一〇〇 一〇 樺太ニ於ケル石炭ノ採掘ニ關スル法律案委員

衆議院

昭和

一一	七	六	五
五	六	一	一
四	一	二	二
開院式	開院式	開院式	開院式
勅語奉答文起草ノ件委員	勅語奉答文起草ノ件委員	勅語奉答文起草ノ件委員	勅語奉答文起草ノ件委員

衆議院

昭和十九年九月二十六日

貴族院書記官長 小林 次郎



衆議院書記官長 大木 操 殿

元議員特旨位勳陸敘ニ關スル件

正五位勳二等 大竹 貫一

右者元貴族院議員ニ有之候處本月廿二日卒去致候ニ付テハ此際位勳陸敘詮議方具申相成候ニ當リ本院ニ於ケル功績ヲモ相加ヘラレ度別紙履歴書竝功績書相添此段及御依頼候也

貴族院

功 績 書

正五位勳二等 大 竹 貫 一

右者元貴族院議員ニ有之本月廿二日卒去セル處同人ハ別紙履歷書記載ノ通明治廿七年三月第三回衆議院議員總選舉ニ於テ當選シ爾來當選ヲ重ヌルコト更ニ十有五回ニ及ビ續イテ昭和十三年二月貴族院議員ニ勅任セラレ同十四年十二月貴族院議員辭任ニ至ルマデ議員生活實ニ三十有七年ノ永キニ互リ其間衆議院ニ於テハ屢々各種常任委員並多數重要法案ノ特別委員ニ舉ゲラレ殊ニ一方ノ領袖トシテ能ク憲政ノ進展、民意ノ暢達ヲ計リ又日清、日露各役、第一次歐洲大戰、滿洲事變及支那事變等ニ際會スル

貴 族 院

ヤ極力關係法律案並豫算案成立ノ爲盡力スルト共ニ銳意輿論ノ喚起或ハ士氣ノ昂揚ニ努メ以テ明治、大正、昭和三朝ニ互リ國威ノ宣揚ト國政ノ充實等ノ爲貢獻セル所眞ニ大ナルモノアリタリ。就中本院議員トシテハ恰モ支那事變ノ最中ニ當リ第七十三回及第七十四回帝國議會ニ應召シ之等各議會ニ於テ國家總動員法案、電力管理法案、航空機製造事業法案、石油資源開發法案、造船事業法案等ヲ始メ増稅法案其他百七十有餘件ノ政府提出法律案並軍事費豫算案等ノ審議ニ參與シ常ニ精勵格勳協贊ノ任ヲ竭セル等其ノ功績顯著ナルヲ確認ス

天
養
三
三
九
號

故正五位大竹貫一

特旨ヲ以テ位一級追陞セララル

昭和十九年九月三十日

正五位大竹貫一

敍從四位

昭和十九年九月二十二日

右之通 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝辭
令ハ追テ可及回送候也

昭和十九年九月三十日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

内務大臣

官 内 省

裏面白紙

裏面白紙

丙
養
三
命

故從四位大竹貫一

右位記竝辭令及回送候條交付方御取●有之度候也

昭和十九年十月五日

宗秩寮總裁子爵武者小路公共

内務大臣

官内省

二
號
昇
紙